

機械器具 22 検眼用器具
一般医療機器 検眼レンズ (JMDN コード 34653000)

スキヤスコピーラック

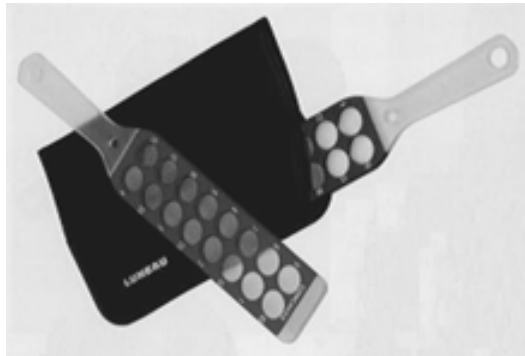
【形状・構造及び原理等】

＜構成＞

プラスチック一体モールドニングの板付レンズ。

(+)レンズ・(-)レンズ 2本組、専用ケース入り

補正レンズ度数 ±0.5, 1, 1.5, 2, 2.5, 3, 3.5, 4, 5, 6, 7,
8, 9, 10, 12, 15D



＜仕様＞

(1) 補正レンズ度の範囲

(+)レンズ: 0.5D～4.0D (0.5D 刻み)、
5.0D～10.0D (1.0D 刻み)、
及び 12.0D、15.0D

(-)レンズ : (+)レンズと同じ

(2) レンズ度の誤差

±0.5D～3.5D: ±0.25D

±3.5D～15D: ±0.50D

【使用目的又は効果】

屈折度、調節量の他覚的測定

【使用方法等】

レチノスコープと併用する。

- (1) レチノスコープを点灯し、線状光が垂直になるようにする。
- (2) 被検者の片眼を 50cm の距離で、正面やや耳側から照光し、線状光が瞳孔をよぎるように左右に動かす。
- (3) 線状光の左右の動きに伴って瞳孔内の反射光の動きが同じ方向に向かえば、同行の状態で -2D 以下の近視か正視或いは遠視である。スキヤスコピーラックの +5D のレンズを被検眼の眼前に当て、同様の操作で瞳孔内反射光の動きを観察する。
- (4) 瞳孔の一部に線状光が入ると瞳孔全体が明るくなり、瞳孔から外れると中和状態で -2D の近視である。
- (5) (3)の操作により、凸レンズの度を強めていって中和する

レンズを求める。中和したレンズ度から 2D 引いて、被検眼の水平径線の屈折度を求める。

- (6) スキヤスコピーラックのレンズを当てないで反行するときは、-2D 以上の近視であるから、-0.5D のレンズから凹レンズの度を順に強めていって、中和するレンズを求める。
- (7) 次いで線状光を水平にして、被検眼に対し上下に線状光を移動させて、瞳孔内反射光の動きを監察する。同行か反行かによりスキヤスコピーラックで中和するレンズを求め、垂直径線の屈折度を定める。

【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

- (1) 本品の使用者は、医師、医師の指示を受けた人及び視能訓練士だけに限定すること。本器の使用は、如何なる場合も医師及び視能訓練士の指示に基づいて行うこと。
- (2) ハンドル部分を保持し、レンズ表面には直接手を触れないこと。

【保管方法及び有効期間等】

＜保管条件＞

常温に保管すること。但し、40℃以上の高温、5℃以下の低温及び 70%以上の湿度は避ける。

【保守・点検に係る事項】

- (1) 汚れた場合は、柔らかい布で軽く拭うこと。
洗浄用の液体や溶剤は決して使用しないこと。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者

ジャパン フォーカス株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-37-18

TEL (03)3815-2611

* 外国製造業者 LUNEAU TECHNOLOGY OPERATIONS

フランス

緊急連絡先

ジャパンフォーカス株式会社 TEL (03)3815-2611

株式会社 JFC セールスプラン TEL (03)5684-8531